

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2025/9/30

団体名		NPO法人 子どもの未来・にじ色プレイス		活動タイトル		こども食堂開設者が連携して、繁華街のたまり場などに赴き支援につなげる活動の展開			
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）						■ 活動風景			
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)		実現したいビジョンは「どんな環境に生まれたとしても、社会からとりこぼされない子どもに優しい社会」です。家庭において虐待や貧困、精神疾患や病気の親の介護等の問題を抱えている子ども達があります。子ども達自身での解決は難しい状況下で孤立している子ども達が行政や支援団体と繋がり、必要な支援を受ける権利があります。苦悩を強いられている現状の生活が普通で当たり前と諦めてしまうのではなく、声を上げればいつでも相談できる場所や頼れる大人の存在がいて、用途に合わせた支援を受け、生活の改善をはかることができます、子ども達が諦めない社会づくりをめざします。□□				5月ナイトカフェ 			
●団体の社会的役割(ミッション)		"当団体の役割は「子どもたちを地域に戻す」「専門的な問題に取り組むこども食堂をまとめる」「こども食堂のスキルアップ」を図ることです。 1.前年度（現在進行形）の勉強会に参加したこども食堂に働きかけ、夜回りや炊き出し等を行い、繁華街をさまよう子ども達と関係性を構築し、子どもたちを自分の住む地域に戻すアウトリーチ活動をします。 2.既存のこども食堂を子ども達の地域での居場所、相談場所とするために昨年から引続き、こども食堂開設者の勉強会を行い、参加対象を新規でこども食堂の開設を考えている人に広げます。 3.若者支援の講師（実践者）を招いて講演会を企画します。"□□							
●団体の活動基盤		"●望ましい人的資源/新事業の広報や事務関係者や夜回りで気軽な声がけをでき、子どもと関係性を育むことができる人材 ●望ましい物的資源/夜回りにより子どもたちに必要になる提供品や炊き出し等を行う食材や会場 ●望ましい活動資金/今回の新規活動に賛同してくれる当団体の会員や寄付者を開拓し、安定的な財源 ●望ましい情報/夜回りに参加するこども食堂開設者の地域の子どものたちからの困りごとを抱えた子どもの情報集めや対象となる子どもたちへの支援方法の多様な情報"□□							
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			8月ナイトカフェ 			
夜回りを中心にスタッフのスキルアップと実践を中心に活動を行いました。勉強会では夜回りで出会う若者の背景を予測し、ヤングケアラーとケアリーバ（社会的養護経験者当事者）を講師に招き、対話しました。コミュニケーションスキルを高めるために傾聴講座も開催しました。2022年に札幌市の受託で夜回りをし、若者の実態調査をしていた団体を招いて講座を開き、協働で夜回りをするに至りました。2024年10月からの夜回りでは主軸となるこども食堂の活動を生かし、手作りの軽食を配布しながら、若者に声をかけました。述べ350名の若者に声をかけました。過去にご飯を食べられなかった経験がある若者や大麻を使用する若者、札幌市街から宿泊先を決めずに遊びに来る女子中学生や夜中まで遊び歩く女子小学生たちと出会いました。 2025年7月には名古屋市で夜回りをし、現在は夜の公共の場（屋外）で定期的に若者の居場所を開設している団体の講演会を開催し、名古屋の若者の現状や支援方法を学びました。			①アウトリーチ活動に関しては若者との関係構築に時間を要すること、定期的に決まった場所でのカフェ開催が難しく、「夜回りで声がけた3割がカフェに参加する」の目標を大幅に下回りました。 ②講演会は参加者の半数が勉強になったとのアンケート結果が出ましたが参加者の見込み人数を下回りました。 ③こども食堂開設者の勉強会は1～5段階評価で4（良い）5（非常に良い）が91.6%となり、目標達成となりました。 ④活動周知、報告の配信数は目標を達成していますが寄付者や賛同者を募る配信が少なく、寄付などの資金確保に繋ぐことができませんでした。						
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			
アウトリーチで若者の居場所に入って関係を築くにはコミュニケーションスキルが重要になります。スタッフによって若者の交流に得意不得意があり、夜回りスタッフのチーム編成を熟考しました。こども食堂開設者は、日頃、小学生まで低年齢層の子どもたちとの交流が多く、中学生以上の若者との交流には慣れていないようです。その部分をフォローするためにユースワーク（若者支援）を主軸に行う団体との連携を図りました。			路上で声をかけ、立ち話をするのではなく、定期的に腰を落ち着かせて話ができる場所が必要です。その場所の確保として、行政の協力が必要だと感じています。 若年女性支援事業は行われていても、私たちが声をかけるのは10代の男子が圧倒的に多い状況です。しかし、その中には10代以下の小学生女子もいました。 札幌で行政の受託を受けて活動している若年女性の支援では望まぬ妊娠を含めて体の相談等があると聞きます。2025年4月には北海道で17歳の少女が自宅で出産し、その乳児の遺体を遺棄して保護観察となりました。このような事件のたびに女性だけが注目を浴びます、しかし、男性にも女性同様に性教育が必要だと考えます。 夜回りで出会う10代の若者たちと関係を構築し、生命の尊さと人を思いやる心を伝えていけるように活動を続けてまいります。			この1年間の活動を通じて		アウトリーチ（夜回り）の基盤構築	を達成しました。
						■ 受益者の具体的な変化（自由記入）			
						声をかける若者たちに軽食を配布しながら夜回りをする当団体の活動を知る若者たちが増えてきました			